

体の状態を「見える化」

弘大とマルマンが健康管理アプリ開発



弘前大学と、弘前市のソフトウェア・システム開発会社マルマンコンピュータサービスが、体重や血圧、食事、歩数といった個人データを日々記録できる iPhone (アイフォン) 向けアプリ「健康物語」を共同開発した。自分の体の状態を「見える化」しつつ、アプリへのログインや健康目標達成などにより、プレゼントに応募できる「健康ポイント」を導入するなど楽しみながら健康づくりにつなげる。4月には Android 版もリリース予定で、個人利用に加えて注目が高まる企業の健康管理での活用も期待される。

(西尾瑛)

両者が24日、記者発表。健康づくりに取り組む弘前大学COO I 事業の一環で、マルマンコンピュータサービスは同COOに参画している。

健康物語は、もとはパソコンを使った企業向けソフトウェアだったが、今回のアプリ化でデータ入力しやすくなり、個人利用にも裾野が広がった。

アプリでは、体重、血圧、体温、歩数、歩行距離、食事、睡眠時間、体調状況など11の

体重など記録、変化をグラフで 動画で気軽に学びも



生活状況を入力し管理。このうち、歩数と歩行距離は、アイフォーン機能の「ヘルスケア」で計測するデータを自動取得できる。日々の変化をグラフで確認できるほか、自分で毎日の健康目標を設定することで達成感を得ながら健康を目指す仕組みとなっている。

また健康啓発も重視。健康クイズやクロスワードパズル、メタボなど健康に関する動画「健康チャンネル」を用意し、空き時間などを活用して気軽に楽しく健康を学べるようにした。

アプリは2月末から

体に役立つ情報を日々記録し、体重、歩数、食事や運動、体温、血圧、睡眠時間、体調状況など11の項目に関するデータを日々記録し、健康維持・管理に役立てることができる。

マルマンコンピュータサービスの工藤寿彦常務取締役は「健康物語を使うことで、1%でも2%でも健康に対する意識を高めてもらいたい」とし、弘前大学大学院医学研究科社会

また健康啓発も重視。健康クイズやクロスワードパズル、メタボなど健康に関する動画「健康チャンネル」を用意し、空き時間などを活用して気軽に楽しく健康を学べるようにした。

App Storeで無料公開を開始。現在、弘前市の弘泉・弘前中央青果の社員35人を対象に3カ月間の実証実験を行っている。今後、健康に関するアドバイスや、健康診断などの結果も合わせて入力・管理できるよう機能を充実させ、秋頃には有料化を検討している。

医学講座の中路重之教授も「楽しみながら使ってもらい、日常的に自分のデータを見ながら、『気づき』につなげてほしい」と語った。